

平成26年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・**最終**)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 警固屋中学校

a 学校教育目標	「自分を創る」	b 経営理念 ミッション・ビジョン	<ミッション> (学校の使命) 小中一貫教育を通して、「自他の幸せを目指し、自立し貢献できる人間」の根っこを育てる。 <ビジョン> (将来の学校像) アメニティ環境に包まれる学校 ・行くのが楽しい学校の実現。 ・会うとうれしくなる先生の育成。 ・会うとうれしくなる仲間の構築。
----------	---------	----------------------	--

c 中期経営目標を踏まえた現状(進捗状況)と今年度の重点	【現状(○成果●課題)】 ○ 小中一貫教育を推進する組織体制が確立しており、小学校と中学校の一体的な学園運営が軌道に乗っている。 ○ 平成25年度に改訂した学校教育目標『自分を創る』を意識した自立的な教育活動が展開できるようになった。 ● 小中一貫教育校の設立当初の組織やシステムが残っており、これらの見直し及び小中一貫教育による教育活動の質的向上を図る必要がある。 ● 「ことば」「いのち」「まなび」をキーワードとして各教育活動を行ったが、特に「まなびの質の向上」では、生徒の変容をみとる取組が不十分であった。 ● 自分の気持ちを言葉で表現することやかけがえのないいのちの醸成を図ることは、本校教育の基盤として継続する必要がある。 上記の現状より、次の4点を今年度の重点とする。 ①思考力・表現力を育む指導の改善 ②自分の思いを表現できる力の向上 ③かけがえのないいのちであることの自覚の醸成 ④体力・運動能力の向上
------------------------------	--

評価計画(中期経営目標を設定してから 1・②・3年目)						自己評価					
重点	d 中期(3年間)経営目標	e 短期(今年度)経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h 目標値	9月			2月		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
***	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い、触れ合う環境を創る。 貫	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。	自治会長会、民児協、補連協等と連携し、地域と共に「あいさつのできる」警固屋つ子を育てる。	「自分を創る」の言葉のレベルが3(規律)以上を達成できる生徒の割合。 地域での児童・生徒のあいさつについて、地域住民の肯定的な評価の割合。	90%	77%	86%	B	79%	88%	B
					80%	86%	108%	A	86%	108%	A
		○生徒の「ことばの力」を高める。	朝読書、図書委員会の啓発活動等により、読書習慣の形成を図る。	1か月に1冊本を読み切る生徒の割合。	90%	48%	53%	D	35%	39%	D
		○自分の思いを表現する力を高める。	自立ノートを活用し、振り返りの欄に自分の思いを表現させる。	自立ノートに自分の気持ちを綴ることのできる生徒の割合。	85%	73%	86%	B	75%	88%	B
**	かけがえのないいのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人がかけがえのないいのちであることを自覚できる。	道徳教育の重点目標を「生命尊重」とし、教育相談や自立ノートを効果的に活用する。	生命の尊さについての生徒の肯定的な評価。	100%	91%	91%	B	96%	96%	B
		○いじめを許さない学校風土を作る。	・教職員の日常的な生徒の実態の把握による早期発見体制の整備 ・生徒会によるいじめ撲滅に係る主体的な活動に実施。	いじめアンケートにおいて、「いじめはない」という回答。	100%	99%	99%	B	100%	100%	A
***	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。	○思考力、表現力を高める。	日常の授業において、生徒が自分の考えを表現する場の設定を工夫する。(授業展開モデルによる)	「基礎・基本」定着状況調査生徒質問紙の思考力に係る項目の肯定的評価の割合。	85%	67%	79%	C	63%	74%	C
*	生徒の体力向上を図る。 貫	○課題のある柔軟性を向上させる。	保健体育科及び部活動の準備運動等において、柔軟性を高める運動に継続して取り組む。	長座体前屈の県平均を上回る生徒の割合。	70%	52%	74%	C	84%	120%	A

【k:評価】
 A:100≦(目標達成) B:80≦(ほぼ達成)<100
 C:60≦(もう少し)<80 D:(できていない)<60

平成26年度 結果の分析及び今後の改善策(案)

(中間・**最終**)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(1年間) 経営目標	l 結果の分析 (結果と課題をこう考えます)	m 今後の改善策(案) (こう改善します(案))
***	生徒も教職員も生きた言葉で語り合い、触れ合う環境を創る。	○いつでも誰に対しても気持ちの良いあいさつと返事ができる。	7月・9月と生活目標と関連づけながらあいさつを高める取組を継続していった。また、日々のあいさつ運動に加えて、保護者や地域の方が来校される行事等の際にさらにあいさつ運動を実施し、あいさつが響き合う警固屋の気運を高めていった。その結果、地域の方の86%が肯定的評価をされている。これは、昨年度と比べて11%以上の伸びであり成果が表れている。しかし、「自分を創る」の言葉のレベルを3(規律)以上にすることについては、79%にとどまっている。気持ちの良いあいさつと返事についての意識が不十分である。	・1月から学園全体で「あいさつ標語」の取組を進めている。地域にも掲示することで、「あいさつが響き合う警固屋」をさらに目指して地域への啓発活動を充実していく。 ・3月の生活目標と関連づけながら、気持ちの良いあいさつと返事が対人関係の基本であることを繰り返し指導していく。校内の日常のあいさつと返事の改善をやり直しも含めて継続していく。
		○生徒の「ことばの力」を高める。	結果として目標値には遠く及ばなかった。中間報告時よりも数値的には下降してしまった。その原因としては、記録の保存の有無が大きく挙げられる。1学期よりも朝読書の充実を図ることはできたのだが、記録が不十分であったり、記録用紙を紛失していたりでカウントできなかったものが多々あった。また、朝読書の10分間しか読まない生徒も多く、読書時間の少なさがもう一つの原因であると考え。	記録に残すことを確実にし、継続して朝読書の時間を確保していく。まずは本を手にとることを習慣化させていく。学級文庫や図書室の蔵書は今後もアンケートを取りながら生徒が興味・関心をもつものを中心にそろえていく。読みやすいものを読破することで、読書の楽しみにたどりつくことをねらう。また次年度からは月初めにクラスで図書室に行き、必ず本を借りさせることから始める。自分で興味関心のある書物を選ばせることで読書習慣の定着を図る。
		○自分の思いを表現する力を高める。	道徳の時間や行事の後に、自分が感じたことや学んだこと、今後の目標、展望について書く生徒が増えてきた。反面、語彙力が高まっておらず、稚拙な表現や平仮名を安易に使い、一日の出来事などに終始している生徒も依然としている。	・各授業において、自分の考えをしっかりと書かせ、表現させる時間を確保するとともに、終末の振り返りをさらに充実させる。 ・時にはテーマを設定し、自立ノートの振り返り欄に、感じたこと、考えたことを具体的に書くよう指導する。
**	かけがいのないのちの自覚を生徒・保護者・地域に根付かせる。	○一人一人かけがえのないのちであることを自覚できる。	「いじめ撲滅キャンペーン」に合わせて全校で「生命尊重」についての道徳の授業を実施したり、学校行事等と関連づけながら計画的に道徳の授業を実施し、また、教育相談や自立ノートの効果的な活用にも努めた。その結果、「私は、生まれてきたことに感謝し、精一杯生きていこうと思っています。」と肯定的評価をした生徒が96%であった。目標の100%に到達していない。これは、自分の良さが回りから認められていないという自己肯定感の低さが原因と考えられる。	・これまでの取組を継続しつつ、学校・クラスの中で、お互いの良さを認め合う集団作りをさらに進めていくために「今日のMVP」の取組を今後も継続していく。 ・否定的に評価している4%の生徒には、個々の思いを引き出す場(個人面談や自立ノートの活用)を設定し自己肯定感の向上を図る。
		○いじめを許さない学校風土を作る。	今回のアンケート調査で「いじめはない」と回答した生徒が100%の目標値を達成した。これは、平成20年度から「いじめ撲滅キャンペーン」を行い、全校生徒一人一人を対象に丁寧に教育相談を行った成果が表れていると考えられる。しかし、友だち同士で調子に乗ってふざけたりする場面も見られるため、今後も注意していく必要がある。	・これまでの取組を継続し、気になる生徒の悩みの解消に努め、いじめの早期発見・早期対応に取り組む。
*	自分の意見を持ち、自分の言葉で説明できる力をつけ、学びの質を高める。 生徒の体力向上を図る	○思考力、表現力を高める。	中間報告時よりも若干の減少があるが、全体としては横ばい状態で、目標値には届かなかった。研究授業を行い、各教科の授業においてさまざまな思考の場が用意されたはずだが、それが生徒の意識の中に定着しておらず、その場限りのものとなっているのではないかと。繰り返し指導を行うことで生徒の意識も高まると考える。	各教科で「自分の考えを表現する場の設定」の取組がなされたが、まだまだ発展途上であり、継続して取り組まねばならない。また、成果と課題をある程度は共有化することができたが、具体策を伴ったものには至っていないので、新たな理論を取り入れ、生徒の思考を深めるための研修を深め、授業実践に生かしていく。
		○課題のある柔軟性を向上させる。	長座体前屈において、県平均(H26)を上回る生徒 1年男子 80.0% 1年女子 92.3% 2年男子 54.5% 2年女子 100% 3年男子 88.9% 3年女子 84.6% 県平均を上回る生徒が84%で、年度初めに比べ記録の向上が見られる。しかし、2年男子に依然として課題が見られる。	・今後も保健体育科の授業で、意識的に柔軟運動を継続して取り組む。 また、来年度も長期休業中に、ストレッチの課題を出す。 ・運動部活動の顧問と連携し、各競技に応じたストレッチを継続して行う。

平成26年度 学校関係者評価及び改善策

(中間 **最終**)

警固屋中学校区 校番 8 学校名 呉市立警固屋中学校

評価項目	※評価	理由・意見
目標、指標の設定の適切さ	A	遊びの質的な変化による、人との関わりの希薄化に起因し、子ども達の語彙力は確かに低下している。ことばは学力の基盤であるので、学校が「ことばの力」を高めることに力点を置いているのは、大変意義あることである。
目標達成のための方策の適切さ	B	「ことばの力」を高めるために、読書活動の充実に取り組まれているが、なかなか成果が上がらない実態にある。読書以外にも、「ことばの力」を高める方法はあると思うので、工夫をされてはどうか。
自己評価の結果と分析の適切さ	B	多くの項目が、生徒アンケートを基に評価をされている。アンケートにどれだけ子ども達の正直な思いや、実態が表れているのか疑問に思うところもある。適切な評価にしていくためにも、アンケート以外の手法を取り入れた方が良いのではないか。
今後の改善策(案)の適切さ	A	読書を通じて語彙力と思考力を高め、自立ノートで思いを表現する力を高め、日常の授業を通して、思考力と表現力を高める事に対して、課題を踏まえて具体的な手立てが講じられている。しかし、今日の子供達は、他者のまなざしを意識し過ぎるあまり、思いはあってもそれを表現する仕方がわからない状態にあるのではないか。こうした特性を考慮して、表現力を伸ばしていただきたい。
その他		○子ども達のことを先生方がよく見てくださり、親が気がつかないようなことにも気づいて知らせていただき、おかげでその都度子どもに適切な声かけや関わりを持つことができた。大変感謝している。

※ 評価は、A(とても適切)、B(概ね適切)、C(あまり適切でない)、D(まったく適切でない)、N(分からない)

学校関係者評価を受けての今後の改善策	<p>○子ども達の語彙力を高めるために、地域を含めた大人と中学生の交流の場を設定してはどうかという提案をいただいた。実現可能なところで検討していきたい。</p> <p>○思考力、表現力を育成するためには、やはり授業改善は不可欠である。次年度は、校内研修、学園研修を充実させ、「思考ツール」を効果的に活用することで思考力を高めていきたい。また表現力のうち発言力は、集団の風土を受容的なものにしていく必要がある。このための方法論についても、研修を重ねながら、具体的な手立てを講じていきたい。</p>
--------------------	---